



2005

No. 3

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・志村 幸雄

編集・広報委員会

発行・2005年7月7日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL: //www.nspa.or.jp

自然科学書協会が目指すもの

自然科学書協会の発足は第二次世界大戦直後の昭和21(1946)年のことで、来年で創立60周年を迎えます。日本雑誌協会が来年で創立50周年、日本書籍出版協会が再来年に同じく創立50周年を迎えることを考えますと、当協会は現存の出版団体としては最も歴史の古い団体の1つといえます。

終戦直後の廃墟の中から呱呱の声を上げたのは、科学技術の発展こそが日本再建の基盤になるとの認識に加え、印刷用紙割当問題といった戦後の混乱期ならではの現実的要請があったからです。昭和26(1951)年には当時の文部省からいち早く社団法人としての認可を受け、積極的な活動を展開しています。

当協会の会員は現在71社を数えます。後にも述べるように、広く理学、工学、農学、医学、家政学の主力専門出版社が加わり、日本の出版界で一大勢力を形成していると言っても過言ではありません。創業年次別に分けると、江戸期1社、明治期10社、大正期13社、昭和前期(～昭和20年)16社、同後期(21年～)32社となり、大正期までの創業が3分の1を占めているのも、1つの特徴となっています。

当協会の活動は、6つの専門委員会(総務、著作・著作権、国際、販売・出展、情報システム、広報)と2つの特別委員会(税制・再販流通、著作・著作権)を基盤に、その時点時点の諸問題に積極的に対応しています。この種の活動を通じて会員各社との接点をでき

るだけ多くし、専門書出版特有の問題に指針を与えていくのが願いです。

具体的な活動成果としては、再販制度維持問題や内外の図書展示会への出展などがありますが、最近の中心テーマの1つは、出版者の権利の拡大問題、なかんずく複写権問題への対応と著作権法改正に伴う権利制限規定への反対表明などがあります。今後は、消費税引き上げ時における軽減税率の適用なども活動目標になってくると考えます。

7月中旬の定時総会では新執行部が発足しますが、科学技術創造立国を担う専門書出版集団として、矜持と理念を抱き続けることが何よりも重要と考えます。(理事長 志村 幸雄)

自然科学書協会は

どんな出版物をカバーしているか?

自然科学書協会がカバーする「自然科学書」は、一般書、児童書、人文科学書などと区別され、「理学」「工学」「医学」「農学」「家政学」の5分野の書籍を総称して言っています。

目録刊行会による図書目録によると、それぞれ以下に説明する分野のものを中心に扱っています。ただ、近年の社会や技術の融合、複合化により分類分けできないもの、たとえば環境、情報、バイオ、ナノテクノロジー、エネルギー、マネジメントなどは、5分野でそれぞれが扱っています。

理学：科学一般、数学、物理学、化学、天文学・宇宙科学、地球科学・地学・地質学、生物科学・一般生物学、植物学・動物学
工学：電気・電子工学、機械・金属、建築、環境・化学工学、土木工学、情報・経営工学
医学：基礎医学、基礎医学関連科学、臨床医学

(基礎系、一般、内科系、外科系)、医学一般、衛生・公衆衛生学、看護学、保健・体育、栄養学、薬学、歯科学

農学：農学・農業一般、土壌・肥料、農業工学、病虫害、作物一般、園芸一般、農芸化学・農産加工、畜産、獣医学・比較医学、林業、水産

家政：生活・家政学一般、生活経営・経済、家族の生活、食生活、栄養、食品、調理、食事療法、健康、保健・衛生・生理、衣生活、住生活、生活環境、児童の生活、生活福祉、生活情報、家庭科教育

(株)朝倉書・井上 昭彦)

「理学」とは、「基礎科学」とほぼ同じ意味で、大学の理学部で学び研究する学問分野のことです。あるいは、中学・高校時代に「理科」で勉強したものに数学を付け加えたもの、といったほうが分かりやすいかもしれません。では上記の分類にもとづいて、各分野について、もう少し詳しく説明します。

「科学一般」とは、専門分野に分類しにくい広いテーマを扱うもので、科学史や年表・ハンドブックなどの多くもここに入ります。「数学」は、代数・幾何・微分積分などのほか、情報科学も含まれます。「物理学」は、物質界の構造や法則を探究する学問で、力学、電磁気学、量子力学から物性論・素粒子論までが含まれます。「化学」は、原子・分子についての学問で、有機化学・無機化学や物理化学などがその代表。「天文学・宇宙科学」は、星や銀河や宇宙に関する科学すべて。「地球科学・地学・地質学」は、地球に関する科学のことで、気象学もここに入ります。「生物科学・一般生物学」は、遺伝学・発生学・生化学・進化論など生物学全般をさします。最後の「植物学・動物学」は、生物学のうち、動物または植物の一方だけを扱っているものを、便宜的にここに分類しています。

(株)岩波書店・宮部 信明)

「工学書」が扱う工学は、技術を科学的な方法で体系化したものであり、基礎科学を基に、人間の生活を豊かにするための応用科学・技術です。すべての人間がより実りの多い生きがいのある営みを実現できるようにするための学問ということになるでしょうか。

工学書は数式で解が導き出されることが多いの

も特徴で、分類すると以下のようになります。

電気や電磁気、半導体や電子回路技術の研究や応用を取り扱う「電気・電子工学」。設計、熱力学、流体力学、材料工学など力学を基に機械について学び研究する「機械工学」。自動車、航空、船舶もこれに含まれます。金属の物理的・化学的な性質についての評価や新しい金属の研究開発を行う「金属工学」。橋、道路、河川、都市計画など人間が生活する上で必要不可欠な施設をつくり、管理、発展させる「土木工学」。人間が快適かつ安全な建物をつくるために必要な工学の総称で設計、意匠、計画、施工、構造、材料などを含む「建築」。物質の変化をとまなうシステムを扱う「化学工学」に都市環境や、公害・汚染などの「環境」、マネジメントを行っていくための方法論を研究する「経営工学」。ハードやアプリケーションを含むコンピュータ、システム関係全般に情報処理など「情報科学・コンピュータ」。このように工学はいずれも技術立国日本の礎を支えている分野ばかりなのです。

(技報堂出版(株)・長 滋彦)

「農学」は、農業に関係するあらゆる分野を扱っています。世界の全人口の1/3にあたる20億人が飢えに苦しんでいます。さらに、現在60億人の人口が21世紀の中頃には100億人になると予測されています。増加する人口に対応する食糧問題は、21世紀の最大の課題といっても過言ではありません。一方、大量消費、大規模開発による環境問題や資源の枯渇が、人類や生物の生存をおびやかしつつあります。

実は、人類や生物が生きていくうえでのさまざまな課題を解決する学問が農学です。さらに、農学の新しい分野である生命の神秘的な仕組みを明らかにするバイオテクノロジーは食料だけでなく、医学やエネルギー問題にも成果を発揮しつつあります。

このような幅広い農学の分野に貢献する農業書を農学・農業一般、土壌・肥料、農業工学、病虫害、作物一般、園芸一般、農芸化学・農産加工、畜産、獣医学・比較医学、林業、水産にジャンル分けして刊行しています。

21世紀における農業書は、人類が生命を維持し、豊かな未来に向かうための羅針盤の役割を果たしているといえるでしょう。

((社)家の光協会・安原 仁)

「医学書」には、専門家向けの内容のものと一緒に一般向けの内容のものがありますが、当協会会員社の発行する本はその多くが専門家（医師、看護師、薬剤師など、さらにそれらを目指す学生）向けの内容になっております。

「医学」は大きく、「基礎医学」、「臨床医学」の2つに分けられます。

「基礎医学」とは、生体の構造・機能の研究、臨床の基礎的事項を研究する学問のことで社会医学も含まれます。直接、患者の診療にかかわらないものです。

「臨床医学」とは、「基礎医学」に対して病人を実地に診察・治療する医学ということになり、さらに基礎系、一般、内科系、外科系とに分けられます。以下に、それぞれの細目を示します。

「基礎医学」には、解剖学、生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、免疫学、衛生・公衆衛生学、環境医学・産業医学、生物学・分子生物学、遺伝学、ME（医用工学）などが入ります。

「臨床医学」の「臨床医学基礎系」は、臨床薬理学、臨床病理学、臨床細胞学、臨床免疫学など、「臨床医学一般」は、診断学・検査法、画像医学・超音波医学、治療一般、救急医学、放射線医学・核医学、癌・腫瘍、栄養・輸液・輸血、薬物療法など、「臨床医学内科系」は、感染症、アレルギー、内分泌・代謝、糖尿病、腎臓、血液、リウマチ、脳神経科学・神経内科学、精神医学、呼吸器・気管食道科学、循環器、血管、消化器、小児科学、皮膚科学など、「臨床医学外科系」は、外科系、脳神経外科学、胸部外科学、心臓・血管外科学、消化器外科学、形成外科学、整形外科学、産婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、泌尿器科学、麻酔・ペインクリニックなどとなります。

これらに関する知識をまとめたり、最先端の研究成果を紹介するのが、医学分野の出版物ということになります。（株）南江堂・柏原 徹二

「家政学」は、家庭生活・家族生活がより良いものとなることを追求する学問です。したがって、その対象は実に広範囲となります。衣（被服）、食（食物）、住（住居）は主な学問対象ですが、家政学で扱う場合には、家族・消費者とのかかわりを重視しています。我々の生活に最も役立つ重要な学問です。最近では「長寿」「健康」をキーワードとする、栄養・食生活、介護福祉関係の図書が多く発行されています。

「被服」には、新素材の開発まで含めた被服材料、洗濯などを科学する被服整理、洋裁・和裁の被服構成、デザイン、手芸、染め織りなどが入ります。「食物」は、食品・栄養・調理の分野で、最近話題の多い「健康」の基礎学問はここに含まれます。生活習慣病、食事療法、バイオ食品、食品衛生、多様化した料理・食文化など、話題の多い分野です。「住居」では室内インテリア、住居設計などが含まれます。その他、消費者問題、家庭経営などの「家庭生活」、生まれてから死ぬまでの人間関係、非行などの青少年問題を扱う「家族」、保育・幼児教育を扱う「児童」、児童福祉、母子福祉、老人福祉を扱う「生活福祉」の分野があります。

生活に関する「環境問題」はそれぞれの分野で扱われています。（株）建帛社・筑紫 恒男

当協会会員社2社が 科学技術分野の文部科学大臣表彰

平成17年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞理解増進部門）を、当協会会員社の（株）オーム社、（株）南江堂の2社が受けた。

（株）オーム社は「『OHM』誌の90年にわたる電気科学技術の振興」の業績、（株）南江堂は「中毒学を学際的部門として取り組み『中毒百科』の刊行」の業績が認められ、「科学技術理解増進部門」での表彰となった。対象になった業績内容は以下の通り。

① 『OHM』誌の90年にわたる電気科学技術の振興

電気雑誌『OHM』は、1914年（大正3年）11月にオーム社の創立とともに発刊されました。創立者の一人である広田精一（東京帝国大学電気工学科卒）は、将来の電気技術の普及を見越して、電機学校（東京電機大学の前身）を1907年（明治40年）に設立した頃、わが国で興りつつあった電機工業はその技術の多くをドイツに依存していました。ところが、1914年7月第一次大戦の勃発でドイツは敵国となり、技術輸入も途絶え、電気技術の自主独立が求められる情勢にあったことから、電気雑誌『OHM』が発刊されたのです。

以来、OHM誌は、世界の電気事情の報道、最新技術の紹介、第一線の電気工学者、電気技術者による理論や技術解説を通して、電気技術者の育成に、戦前・戦後を通して寄与してきました。

OHM発刊の辞には「オームは抵抗を連想せし

む 吾人は吾人の進路に頑強なる抵抗障碍を予期す 然れども吾人は踏み慣らされたる坦々たる道路を歩むを欲せず 必ず新道を開拓し帝国特有の学術を樹立せんとす 国音鸚鵡に通ずるも断じて既成を真似る者に非ず」と記されています。歴代編集長は、その精神を踏襲し、電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本電気協会、日本電機工業会、電気事業連合会等の関連諸団体との連携を図り、わが国の科学技術振興、エネルギー政策の推進、電気技術者の育成と社会的地位向上の立場から、各種の企画を誌面化して提供するとともに技術者の顕彰事業にも取り組んできました。この間、第二次世界大戦中の紙不足や、雑誌・書籍の統制下で「電気日本」と改題を余儀なくされながらも絶えることなく発行し続け、1992年10月には1000号を数え、昨年11月には創刊90周年を迎えました。

2003年からは、それまでの重電技術を主とした編集方針を、時代の流れに即して、環境、エネルギー、エレクトロニクス、情報通信、ナノテクノロジー、バイオ・ME、知的財産権・標準化にフォーカスを挙げ、技術総合誌を標榜して、読者の新たなニーズに応える編集をしています。

(株)オーム社・畠 文七)

② 「中毒」学を学術的部門として取り組み

「中毒百科」を刊行

中毒は、医学はもちろん、薬学、農学、獣医学、化学、工学、生物学、食品学など、広範囲の領域にわたる分野です。したがって、本書では2つの目的に沿って書かれました。

1つは中毒というものの全体像を押さえること。数万種類の化学物質とそこから生まれた数十万種類の製品の生命に対する影響を理解し、その対応処置をとること。

その目的のためには、原因物質相互の関連性も追究する。主として、人の急性中毒について記述してありますが、中毒の全貌を知るためには、慢性中毒にも触れ、環境問題、動植物の中毒にも触れ、また発癌性などの特殊毒性にも触れています。

2つめには、事実にもとづいて説明しています。日本で起きた具体的事例や症例報告を多数引用し、統計上の数値をできる限り多く、長期的統計として取り入れています。

農薬や医薬品は原則として日本での市販品で、できるだけ商用名で収載しています。「化学兵器」

「催涙ガス」「健康食品」なども取り込んでいます。

本書の使い勝手は、目次代わりの6900項目に及ぶ索引の活用がポイントです。事項名索引から症状をたどれば、ほとんど原因物質がたどれます。中毒現場での必携書です。(株)南江堂・植田 誠)

【今後の主要行事】

◆ 第55期 第1回定時総会(決算総会)

日時：2005年7月21日(木)

17:00~18:00 定時総会

18:00~ 懇親会

会場：日本出版クラブ会館

◆ 東京国際ブックフェア2005

期間：2005年7月7日(木)~10日(日)

会場：東京ビックサイト

【協会代表者変更】

◆ 理工図書(株)

旧代表者 志賀 信義

新代表者 柴山斐呂子(代表取締役社長)

◆ (株)中外医学社

旧代表者 青木三千雄

新代表者 青木 滋(代表取締役社長)

◆ (株)講談社サイエンティフィク

旧代表者 鈴木 俊男

新代表者 佐々木良輔(取締役社長)

【訃報】

(株)恒星社厚生閣社長の佐竹久男氏が、6月17日、前立腺癌のため永眠されました。享年70歳。

編集後記

◇ある人が「返品を見ると嫁に出した娘が戻されてきたような感じがする」と言っていた。出版で返品は必定という状況だが、そのくらいの気持ちがわくように、愛情と丹精をこめて本を作れと言いたかったのだろう。本号では、来年創立60年を迎える自然科学書協会の出版分野が紹介されている。実に多岐にわたっている。いろいろな思いが込められた書籍に、何とか読者を振り向かせ、自然科学の面白さと奥深さを楽しんでもらえたらと思う今日この頃である。(M. K)

第53/54期広報委員

<担当常務理事> 筑紫 恒男(建帛社)

<委員長> 平田 直(中山書店)

<副委員長> 宮部 信明(岩波書店)

<委員> 井上昭彦(朝倉書店)・池田富士太(科学新聞社)・長 滋彦(技報堂出版)・柏原徹二(南江堂)・小浴正博(恒星社厚生閣)・新谷滋記(工業調査会)・田中久米四郎(電気書院)・森田 猛(緑書房)・安原 仁(家の光協会)